

京都新聞社の「厚意により、平成八年六月に同新聞紙上に連載されました京三中学徒勤労員の記録「防人の詩」を毎号紹介しています。(全34話)

「防人の詩」(十八)

濃陰軍野に一段と秋色の濃くなったころ、京都三中の勤労学徒たちは日々の作業にも習熟して、各自が重要な作業を分担するようになってきた。

彼ら学徒班の一人だった三年生、西村武美君(一四)はその日、たまたまの公休を利用して一人で寮をあとにしていた。この日の西村君外出は、彼にとつて極めて重大な目的を秘めていた。西村君は――

「自分は列車を乗り継いで三重県の鈴鹿にまでやってきた。実は、自分の兄はこのとき、鈴鹿海軍航空隊にいたのだ。自分の謙治兄(二〇)は、この基地で偵察搭乗員の一人として訓練に励んでいた。その日は京都の自宅にいる母もやはり、京都から列車を乗り継いで、兄との面会のために鈴鹿に急いでいた」

「自分たち母子三人は鈴鹿の地で久々に顔を合わせた。お互いの近況を話し合うため航空隊の近くの白子の浦で話し始めたが、三人の話題はいつ果てるともなく続くことになった。しかし、

面会の時間は限られており、母も京都の家へ、自分もまた勤労先の工場の寮に帰る時間を考えると、いつまでも話し合うことはできなかった。

「やがて三人は別れることになった。兄は航空隊に、母は京都へ、自分は名古屋から勤労先の半田市の寮に、三人はばらばらに別れることになった。このときの自分の胸中は言葉ではいえないきみしい思いに襲われた。その別れの直前、兄が「ちよつと待て」といった」

「自分は何事があったのかと兄をみた。兄は自分の足元を凝視していた。自分の足元といえば、その日もワラワラをはいっていた。兄はこのぞろりをみていたが、すぐに隊内に引き返すと、右手に何かを持って戻ってきた。みると、ゴム底のズック靴を手に入れた」

「兄は黙って、それを自分に手渡した。自分の胸には熱いものが突き上げてきた。その自分に兄は、いまひとつの品物を手渡した。それは、航空隊の搭乗員の使っている白い絹のマフラーであった。晩秋の朝夕は急に冷気が強く感じられる日々となっていた。兄はさりげなく白絹のマフラーを渡してくれたのだ」

「そして、いよいよの別れとなったとき、兄は二人にいま少しだけ待つようにいった。そして近くの農家に入るや、そこから芋と果物を買ってきた。そして、母と自分のべちゃんこのリュックに芋と果物を詰めてくれた。自分も母

も、その重いリュックを肩にした。そして、自分は名古屋へ、母は京都に向かう列車に乗ったのだ」

「実は、この兄との面会で兄が海軍航空隊の偵察要員であることを知った。偵察要員といえば自分たちが勤労先の中島飛行機半田製作所で手がけている高速偵察機「彩雲」が海軍の偵察機であった。それは、まさに兄の搭乗する機種であった。自分たちが工場現場で生産して一機、また一機とおくり出す機。その機体に手をふれては滑走路に送り出す「彩雲」に兄が搭乗していたのだ」

その実兄の謙治一等飛行兵曹はその後、南九州の鹿屋基地に転じ、偵察機搭乗員として日本本土に接近する米機動部隊への偵察作戦に従事していた。そして、彼の搭乗する「彩雲」は――「偵察第四飛行隊付」として鹿屋航空基地に在りて作戦に従事中、昭和二十年七月二十五日、敵機動部隊の九州東方海面への来攻に際し、第一七一海軍航空隊司令の命を受け「彩雲」一一型に搭乗して参進せるも未帰還となれり。敵哨戒機と遭遇し、これと交戦の後、壮烈なる戦死を遂げるたるものと認定す。第一七一海軍航空隊司令」

彼は愛機「彩雲」とともに散り果てていた。

▼西村武美君(京都府宇治市五ヶ庄西浦四〇の二九元「日本新業」株式会社システム部部長)

姉妹校フィルダーベンデン校との交流 2016 年

2013 年から始まった山城高校とドイツの高校との交流が隔年ごとの訪問で今年は 6 回目を迎えた。先生と生徒 19 名が来京、10 月 21 日金曜日の午後、同窓会会長の森先生と常任理事、学校関係者の臨席のもとでの歓迎セレモニーが行われ、28 日のお別れセレモニーまで一週間を学舎で共に過ごした。21 日に続く土曜日、日曜日は山城



高校の生徒の家にそれぞれがホームステイをして、先ず日本の家庭から滞在体験をした。ドイツで日本語を勉強している生徒ばかりだが生徒間の会話はほとんど英語で行われていた。ドイツの生徒たちは一週間のカリキュラムの中でも特に放課後の部活を楽しんだ。夕暮れになるまで毎日を学校で過ごし白梅町の宿舎まで歩いて戻った。両校の生徒たちはメールアドレスを交換して今後も交流を続けていく生徒もいるようだ。山城高校においても初めて外国人及び外国文化と接する生徒が大半で彼らにとって大きな体験であった。その

後山城高校生徒たちの短期留学希望者が大幅に増えた。ドイツからも交流希望者が増え今まで隔年の訪問であったがこれからは毎年の訪問になるであろうと毎回引率のザビーネ先生が言っておられた。



Hello, my name is Merle Werpasch. Some of you might know me because I was in your class. But for those who don't know me I am going to explain.

About three weeks ago I came to Yamashiro Highschool with my Japanese Class to see Japan and to make some new experiences in a foreign country.

At the beginning of our travel to Japan we went to Tokio where we were able to join the 42 students at the Waseda Highschool and there we had a look behind this big school.

After one week we said our goodbyes to the students in Tokyo but our trip in Japan was not over. We took the shinkansen from Tokyo to Kyoto. For all of us was it the first time to drive this fast with a train. About three hours later we were at Kyoto Station. It was very exciting to see another side of Japan and all of us were really aware of meeting some new friends in Yamashiro Highschool. But firstly at this evening we went to Karaoke for the first time ever in Japan to celebrate a birthday. Anne, a girl who also went to Yamashiro Highschool, turned 18 on that day we came to Kyoto. This was definitely one of the most intense and funniest experiences for all of us.

Our group were very close at the end of this evening and later in our hotel we had more fun with chatting together but all of us were really excited to go to the new school in Kyoto.



Within the next week our group had a lot of new and really good experiences in the clubs, with the really nice food from the cafeteria and of course with the students. Some of us went to karaoke or to eat some sushi with our new Japanese friends. It was really fun.

At one weekend all of us went to homestay to learn more about the Japanese way of living. I asked some of my friends about the homestay and all of them had much fun with the families. All of us went to many different places in Kyoto which was really awesome for us. Again we want to say thank you to our homestay



And with the next morning all of us went to the Yamashiro Highschool.

At this first day we met so many new people who became friends at the end. It was really awesome for us to meet so friendly and open minded students. All of them wanted to help us and our German group is really grateful for that.

families for everything.

The last days in kyoto were really awesome for us because we went for some meditation in a cloister and looked around the city for some souvenir shopping. The last day in kyoto came far too soon and we were all really sad to go to the Yamashiro Highschool for a last time. Some of us cried because saying goodbye was really difficult after almost two weeks together. We made a lot of photos and made promises to write each other sometimes. After that we left the school with the promise to come back soon.

Summing up our days in kyoto all of us had so much fun and we definitely want to go back to kyoto to meet all our japanese friends again! We all are very thankful for all the love and abandonment the students and the teachers gave us. Our little group misses japan a lot...

written by Merle Werpasch

山城高校との交流 2016 年秋

メルレ ヴェルパッシュ

ギムナジウム イン デン フィルダーベンデン校



こんにちは！ 私の名前はメルル ワーパッシュです。今年の秋の姉妹校交流で山城高校に滞在していたので私のことをご存知の方もいらっしゃると思います。が、そうでない方々に今回の交流を綴りたいと思います。

10月中旬私は日本語クラスの仲間と外国での新しい経験を期待して日本を訪れました。先ず私たちは東京の早稲田実業高校という大きな学校で日本での最初の一週間を過ごしました。

その後東京の生徒たちに別れを告げて京都に向かいました。私たち全員初めて新幹線に乗るのでワクワクしていました。3時間未満で京都に到着。初めての訪問地、東京とはまた違った山城高校で新しい友だちに会えることを全員が期待していました。しかし思いもかけず最初の夜は私たちにとって日本での初めての貴重な経験カラオケに行きました。アンという女の子は京都に着いたその日が18歳の誕生日なのでみんなでカラオケに行ってお祝いをしたのです。

私のグループはそれ以来とても親しくなってホテルに戻っても遅くまでおしゃべりをし、そして次の日の京都の新しい高校訪問に興奮していました。

翌朝私たちはホテルから山城高校へ歩いていきました。その最初の日によくの人々に迎



えられ、その中にはその後とても仲良くなった人たちもいました。とてもフレンドリーでオープンな人たちとの出会いはすばらしいものでした。みなさんがいつも私たちを助けようとして手を差し伸べてくれていたので、とてもうれしかったです。

私たちの山城高校での滞在中にはクラブ活動を通じていろんな新しい楽しい経験をしたり、食堂でおいしいものを食べたり、

もちろん生徒同士の交流も進みました。何人かは山城高校の生徒たちとカラオケに行ったり、お寿司を食べに行ったり、本当に楽しかった。歓迎セレモニーの翌日にそれぞれが2泊のホームステイに受け入れられ日本の生活を体験することができました。友人にホームステイの感想を聞いたところ全員が家族によくしてもらったと大満足でした。ホームステイ滞在中にそれぞれの家族が京都のいろんな場所に連れて行ってくれて多くを学びました。ここに改めてホームステイの家族に感謝します。

京都での最後の午前中はお寺での座禅で大変でした。その後お土産などを買いに街に出ました。山城高校での最後の瞬間は余りに早くやって来て、その午後の放課後のお別れセレモニーではとても悲しくて2週間を共に過ごした人たちに別れを告げるのがつらくて泣きだす人もいました。私たちはたくさん写真を撮りあって、お互いに交信することを約束しました。そしてまた再び戻って来ることを約束して山城高校を去りました。

最後になりますが山城高校で過ごした楽しい日々を忘れることはできません。必ず日本の友達に会いに戻って来たいと思います。先生方や生徒たちのおもてなしに心より感謝しています。日本への懐かしい気持ちがいっぱいです。



Yamashiro School Life

vol. 1 2016.10.1

ハイレベルな文武両道

・スペシャリストでありながら、多彩な能力も兼ね備えた人を目指して、山城高校は、何事にも精一杯力を発揮しようとする生徒を育てます。
・一人一人がそれぞれに、学習にも部活動等にも全力で取り組もうとする、それが山城高校生です。
・山城高校はハイレベルな「文武両道」を目指す生徒を応援します。



男子バスケット ボール部

6月24日、滋賀県立体育館で行われた「第63回近畿高等学校バスケットボール選手権大会」に出場しました。また、8月24日に行われた府立高校大会において2年連続13回目の優勝を果たしました。



剣道部

7月9日、滋賀県立体育館で行われた第54回近畿高等学校剣道大会に女子団体が46年ぶり出場を果たしました。



テニス部女子はインターハイ府選団体7年連続ベスト8の強豪、京都府公立高校大会も団体4年連続優勝、今年も第1シードです。



テニス部

テニス部男女とソフトテニス部とでローテーションを組み、体育館屋上コートで練習しています。



女子バスケット ボール部



女子バレー ボール部



ダンス部

8月17日、横浜市のパシフィコ横浜で行われた「第9回日本高校ダンス部選手権全国大会」ビッグクラスに京都府から唯一出場した山城高校は、京の舞妓をイメージした衣装と演出で軽快なダンスを披露しました。



男子部員によるパフォーマンス「ウォーターボーイズ」公演も今年で14年目を迎えます。一昨年度演目「アナと雪の女王」がネット動画で注目を浴び、今年は数多くのテレビや新聞で取り上げられています。

水泳部

競泳では、7月22日から門真スポーツセンターで行われた第70回近畿高等学校選手権水泳競技大会に男女16名が出場しました。

バドミ ントン部



卓球部

7月21日、グリーンアリーナ神戸で行われた第70回近畿高等学校卓球選手権大会男子ダブルス個人戦に嶋本祐介・吉田直矢くんペアが出場しました。

弓道部

7月23日、田辺市立弓道場で行われた第69回近畿高等学校弓道大会に、男子個人高橋大輔くん、女子個人に森心さんが出場しました。



サッカー部



硬式野球部



陸上競技部



6月16日から、神戸ユニバー競技場で行われた第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会に西研人くんが5000mに出場しました。



山城祭 9月7-9日

一いっ祭がっ祭もうこの祭
楽しむしかない山城祭ー

1年ステージパフォーマンス

- 優勝 「ハリオホットと恋の魔法」 ◆9組
準優勝 「男女逆転白雪姫」 ◆6組
3位 「1組の精鋭による現代版浦島太郎」 ◆1組
特別賞 「今昔物語〜Mの句〜」 ◆7組

2年パフォーマンス

- 優勝 「マダガスカル」 ◆2組
準優勝 「サンタクロース選手権」 ◆7組
3位 「ホームアローン」 ◆6組
特別賞 「PIRATES of class NINE」 ◆9組

3年演劇

- 優勝 「銀河旋律」 ◆4組
準優勝 「その花の色は」 ◆8組
3位 「Life or Die」 ◆9組
特別賞 「午前0時の忘れ物」 ◆5組



体育祭 9月27日

開会式
投し物は何ですか
センターオブファイアーン
自転の世界へご案内
竹取物語
30人31脚
クラス対抗リレー予選
祭りだ！わっしょい！
とんでまわして
山城の乱
クラス対抗リレー決勝
閉会式

	1年	2年	3年
優勝	◆5組	◆1組	◆2組
準優勝	◆1組	◆6組	◆7組
3位	◆2組	◆8組	◆10組



グローバル クラスメート



アメリカの高校生とメールでのやり取りを楽しむ特別活動「グローバルクラスメート」を、週1回希望者が集まって行っています。クリスマスにはプレゼントの交換をします。

全学年希望者対象

留学生の 受け入れ



Tom Senthinからの
国際留学生
マーティンくん

ます。

山城高校ではAFSを通じて毎年世界各国から留学生を受け入れています。昨年8月から今年7月までの1年間滞在了ベルギーの留学生マックくんは、剣道、山岳、ハンドボールなどの部活動にも積極的に参加しました。また、今年10月からの一ヶ月間滞在したルセンチンの短期留学生マーティンくんは、日本のサブカルチャーに詳しく日本語も堪能でした。授業の合間にかわす会話からお互いに様々な刺激を受けあ

1年生文理総合科
対象

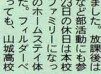
ベルギーからの
留学生マックくん



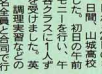
1・2年生
全クラス対象



生との交流を行いました。初日の午前中にワエルカムセレモニーを行い、午後からは1・2年生各クラスに1人ずつ入って一緒に授業を受けました。英語の他、音楽、書道、調理実習などの授業はドイツ生徒16名全員と合同で行う特別授業を実施しました。放課後は剣道やダンス、卓球など部活動にも参加しました。22日と23日の休日は本校生徒の家庭にホストファミリーになったのも、2泊3日のホームステイ体験もしてもらいました。フィルダーペンション校の生徒にとっても、山城高校の生徒にとっても、かけがえのない国際交流体験になりました。



山城高校と姉妹校提携をしてドイツのフィルダーペンション校の生徒16名が来日し、10月20日から28日の9日間、山城高校



ドイツ一校 フィンデン との交流



山城高校と姉妹校提携をしてドイツのフィルダーペンション校の生徒16名が来日し、10月20日から28日の9日間、山城高校



山城スクールライフ

第2号

平成28年
11月12日



文理総合科対象
平成28年度から
1月に1年生で実施

ス(ご飯を食べたり、サ島遊覧研修をするなど盛りだくさんの内容で、充実した研修を行うことができました。



文理総合科2年生生徒41名は6月6日〜10日の3泊5日(機中泊1泊)の日程でシンガポール研修旅行に行きました。行き先をマレーシアからシンガポールに変更して初めての研修旅行となりました。事前学習で準備を買って来たプレゼンテーションの発表をシンガポール大学の学生に対して英語で行い、発表後の質疑も英語で行いました。その後大学生に広い大学構内を案内(撮影作所)やSHINOBISOURCEで企業訪問研修も行いました。グループに現地学生ホステアと一様にリバー散策をしてホー

文理総合科2年生生徒41名は6月6日〜10日の3泊5日(機中泊1泊)の日程でシンガポール研修旅行に行きました。行き先をマレーシアからシンガポールに変更して初めての研修旅行となりました。事前学習で準備を買って来たプレゼンテーションの発表をシンガポール大学の学生に対して英語で行い、発表後の質疑も英語で行いました。その後大学生に広い大学構内を案内(撮影作所)やSHINOBISOURCEで企業訪問研修も行いました。グループに現地学生ホステアと一様にリバー散策をしてホー

文理総合科 シンガポール 研修旅行



グローバル 活動 プログラム

1・2年生
全クラス対象



スピーチ コンテスト

英語力向上を目指し、10月に校内英語スピーチコンテストが開催され、上位入賞者は京都府大会チャレンジします。

1年生
文理総合科対象



中国や台湾との 国際交流

毎年中国や台湾の学校が山城高校を訪問し、文理総合科の生徒と一緒に学校紹介、地理クイズ、合同英語授業などの交流を行います。親交を深めます。

山城高校アカデミックプロジェクト

サイエンスプログラム

4つのプログラム

サイエンスプログラム

人間探求プログラム

グローバル活動プログラム

学習スキルプログラム

3つのステージ

応用

発展

基礎

三層構造のステージと4つのプログラムを組み合わせた山城高校を活性化させるプロジェクト

京都大学医学部訪問

7月に京都大学医学部附属病院を訪問し、整形外科、薬剤師、リハビリテーションなどを特別に見学させていただきました。



1年生
文理総合科
対象

サイエンスアイデア

日本に滞在して研究を進めておられる若手の外国人研究者をお招きして、「最先端の研究内容と毎日の紹介」をオンラインで講演していただくハイレベルなプログラムです。今年はバングラデシュ、ギリシャ、フランスの研究者の方に来ていただきました。



文理総合科・スーパーアドバンスコース
対象

いわたやま実習

嵐山のモーターパークでニホンサル生態観察を行います。グループに分かれてサルの個体追跡を行い、生態的特徴について分析します。



3年生
生物選択者
対象

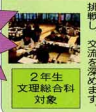
学習スキルプログラム

やましろう手帖

本校では「やましろう手帖」を全生徒が活用しています。計画や予定、課題の書き込み、学習時間を書き込んで自己管理能力を高めます。

全生徒対象

連歌交流会



2年生
文理総合科
対象

中世の奇合の文芸である「連歌」について学習し、教養を深めます。11月には嵐山の時報殿で、他校の高校生と合同で連歌の実作に挑戦し、交流を深めます。

保育園実習 高齢者福祉施設実習



2年生対象

2年生家庭科の授業では保育園、高齢者福祉施設、住宅展示場など、さまざまな訪問見学実習を行います。

山城高校21世紀塾



1年生
全員対象

「山城高校21世紀塾」は、あらゆる分野で活躍されている同窓諸先輩をお招きし、後進に本校独自の行事を送ります。今年で31回目を迎えます。

やましろう文箱

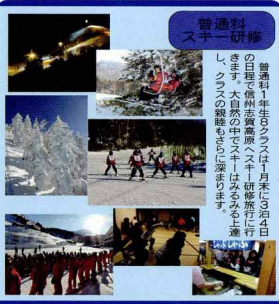
「やましろう文箱」とは、A4サイズのクリアポケットファイルに資料を時系列に従って入れていくポートフォリオ法です。自分史を可視化しながら形成していくことができます。

全生徒対象

グローバルネットワーク宗廟参拝

論文コンテスト	2年生文理総合科スーパーアドバンスコース
プレゼンテーションコンテスト	2年生文理総合科
オスターセッションコンテスト	1年生スーパーアドバンスコース

人間探求プログラム



普通科スキー研修

普通科1年生6クラスは1月末に3泊4日の日程で信州志賀高原ヘスキ研修旅行に行きます。大自然の中でスキーはみるみる上達し、クラスの親睦もさらに深まります。

クラブ活動

(順不同)

- ① クラブの現況
- ② 平成28年度の活動実績
- ③ 目標とすること

イラストレーション部

顧問：榑原英里子 今西美貴 脇田真由美

- ① 1年生 女子4名、2年生 女子3名、3年生 女子4名
- ② 山城祭大看板制作・山城祭パンフレット表紙制作・部誌制作・個人作品制作など
- ③ 日々の作品制作に加え、年に数回の部誌発行や、山城祭の大看板制作など、少人数ながらも皆で協力し楽しみながら活動に取り組んでいます。



弓道部

現在、弓道部は2年生8人、1年生23人で活動しています。最大限に能力を高める為にはどうすれば良いのかを考え、練習内容を工夫しながら部員それぞれが向上心を持って日々の練習に取り組んでいます。

今年度は森心先輩、高橋大輔先輩が近畿大会(個人の部)に出場されました。

来年度も優秀な成績を取られるよう、真摯にそして誠実に弓道と向き合い、さらなる射技向上を目指して練習をしていきたいと思っています。(2年9組 長野凌真)

硬式野球部

顧問：南條浩一 中村裕信 中野 拓

- ① 2年生 11名 1年生 22名 マネージャー 3名 総勢 36名
- ② 春は二次戦を目前にして敗れ、夏の選手権京都大会では初戦でシード校京都廣学館に延長の末、0-1で惜敗しました。新チームで迎えた秋季大会では龍谷大平安を延長戦まで追い詰めたが、結局は二次戦を前にして敗退してしまいました。
- ③ 限られたグラウンド使用や狭さなどの逆境の中、『文武両道』・『人格形成』をモットーに「爽やかな」「粘り強い」山城高校野球部を目指して頑張っていますので、応援のほどよろしくお願いします。

サッカー部

顧問：山岡宏志 宮崎又嘉 大島慎悟

- ① 1年生 24名 2年生 30名 3年生 8名 マネージャー 4名 (4月当初時点)
- ② 京都高校サッカー新人大会決勝トーナメント1回戦敗退
全国高等学校総合体育大会京都府予選3回戦敗退
全国高校サッカー選手権大会京都大会3回戦敗退
高円宮杯U-18サッカーリーグ2016京都 トップリーグ9位
- ③ 目標に向かい努力することの大切さを学ぶ三年間でした。仲間との絆、恩師や先輩方のおかげで今の自分があると感謝する日々でした。
歴史ある山城高校サッカー部OBの一員になれたことを光栄に思います。これからも後輩の応援をよろしくお願いします。



全国高校サッカー選手権大会京都大会の前に撮影した集合写真です。

軽音楽部

- ① 3学年合わせて90名以上が在籍しています。
- ② 文化祭ライブ、昼休み中庭ライブ、学校説明会ライブ、新入生歓迎会ライブ
- ③ 色々なジャンルのバンドがあり、切磋琢磨し、日々練習に励んでいます。普段はバンド毎での活動ですが、春・夏・冬の長期休暇中に公開練習を行い、練習の成果を披露する機会を設けています。



剣道部

顧問：永田成樹 古見武司 高野伸一 田内 浩

- ① 主将 音棚啓伍

人数 3年生 男子2人、女子3人 2年生 男子4人 1年生 男子1人、女子4人 合計14人

- ② 平成28年度全国高等学校総合体育大会京都府予選 女子団体ベスト8

第54回近畿高等学校剣道大会 女子団体出場（46年ぶり）

平成28年度京都府高等学校剣道新人大会 女子団体ベスト8

剣道部3年 大森彩花

私が剣道を始めたきっかけは、兄が剣道を習っていたからです。

幼い頃にはそれほど関心も無く過ごしてきましたが、中学入学を機に、剣道部があったこともあり一度やってみようと思ったのが始まりです。そして高校でも続けたいという思いから、剣道部のある山城高校を選び、学業とクラブ活動の「文武両道」の生活がスタートしました。

授業を終え放課後クラブ活動に参加するのは体力も必要です。剣道は防具を着けてのスポーツのため、特に夏場は防具や面を着けたまま激しく動き回る練習は相当辛いものがありました。あまりの辛さに、正直何度も気持ちが折れそうになり、やめたいと思ったことも一度や二度ではありません。そんな時、いつも優しい先輩に励まされ、同級生の仲間と共に励まし合ったことで私も続けることが出来ました。怪我で手術をし、2ヶ月間全く練

習ができない間も、「いつか近畿大会に出場する」という夢を持ち続けクラブ活動に参加していました。2年生の近畿大会の予選となる大会で、男女ともベスト8を目前に敗れ、あと一歩近畿大会に手が届かなかったことは、本当に悔しくてたまりませんでした。また、この年は1年生の女子部員の入部がなく、女子は同級生の3人での戦いがスタートしたのですが、団体戦5人のうち2人が不戦敗になり、悔しい思いを何度もしました。

そして次の年、待ちに待った1年生の入部で、男女とも5人揃って試合に挑めるようになり、私たちは近畿大会出場に向けて、より一層重ねていきました。そして、いよいよ予選当日、「今度こそ勝ち続けて、絶対に近畿大会に出場するんだ」という強い気持ちで試合に臨みました。男子の暖かい応援、1年生の頑張りや3年生のチームワークで女子団体が5位となり、46年ぶりに山城高校剣道部が近畿大会出場を決めました。今までの厳しい練習や辛かったことが吹っ飛んだ瞬間でした。「努力をすれば夢は叶う」ということを学んだ時でもありました。

私は顧問の先生、先輩、友達、家族に支えられ6年間剣道を続けてきて良かったと心から思っています。これからは後輩達の活躍を陰ながら見守りたいと思います。山城高校で過ごした思い出を胸に、新しく始まる大学生活が一層充実したものとなるようにさらに頑張っていきたいと思います。

山城高校最高!! そしてみんなありがとう。



山 岳 部

顧問：柳生雄久

- ① 1年生 男子6名、女子3名 2年生 男子3名 3年生 男子3名、女子2名
- ② 4月 新歓ハイイク「沢の池」、5月 3年追出し山行「堂山 湖南アルプス」、6月 予備合宿「赤坂山」、7月 夏合宿「立山」、9月 秋合宿「白山」→台風の為中止→代替：11月「曾爾高原」、11月 集中登山「六甲山」、12月～ 近郊登山（予定）
- ③ 自分の意思で山に登ると決めて、自分の意思で行程を決めて、自分の判断で歩く道を決めて、常に仲間のことを思いやる。そんなクラブであって欲しいと願っています。



夏合宿 立山（大汝山）

手 話 部

顧問：櫻井秀樹 吉本弥生 竹山哲治

- ① 生徒代表者：並河双葉（2年9組）、所属人数：10人（1年4人、2年2人、3年4人）
- ② 山城祭のオープニングで、手話を交えたダンス・パフォーマンスを行いました。1、2年の部員は、11月16日に開催された第34回 校内手話弁論大会に参加し、自分の考えを手話で表現・主張しました。3年の部員は、司会等、大会の運営に関わりました。



山城祭のオープニングでの手話ダンス・パフォーマンスを終えて

女子バレーボール部

① 1年生13人、2年生19人、3年生14人、合計 46人

② 試合結果 全日本高校選手権（春高バレー）ベスト8

部活動の思い出 小山未裕

高校生活での部活動は決して楽しいことばかりではありませんでした。新チームになると同時に私はキャプテンになり、今まで感じたこともなかったほどの気持ちを味わいました。先生からいわれ続けたことは今までの山城高校バレー部を捨てて、京都で一番素晴らしい部活動にすることでした。そのことは簡単なことではありませんでした。「なぜ他のチームメイトにしなかったのだろうか」と何度も不満に思いました。その頃は自分自身のことでいっぱい、更にチームの事も考えなければいけなくなり頭がパニックで何も考えられなくなっていました。そして何もかも辞めて逃げ出したくなったこともありました。そんな時、私を助けてくれたのが、共に同じ時間を過ごしてきたチームの仲間でした。私が出来ないことは副キャプテンをはじめ、同学年のチームメイトが補ってくれ、一緒に悩み励ましてくれました。そんな仲間の存在のおかげで部活動を続けられました。私たちの代は、インターハイ予選でも結果を出すことができませんでした。先生にも沢山叱られましたが、私たち自身がこのままではいけないことは一番分かっていました。しかし、チームを自分たちで変えるということは想像以上に難しいことでした。

最後の春高予選では洛北高校に勝ちベスト8に入りましたが、決して納得のいく結果ではありませんでした。ただ、少しは、チームを改革出来たのではないかなと思っています。最後の大会が始まってからは、毎日「結果を残さなければならない」というプレッシャーで押し潰されそうでしたが、今までのしんどかった日々で耐えてきたことや、誰よりも先生に叱られてきた経験が私の最大の強さになり、苦しい試合の中で力を発揮することができました。

部活動で学んだことは、部員全員の目標を統一することの難しさ、日々の練習を切磋琢磨することの大切さ、そして周りの仲間の支えなしには出来ないということです。今ではキャプテンをしたこと、バレー部であったことを誇りに思い、いつも真剣に私たちチームのことを考え指導してくださった先生には感謝の気持ちでいっぱいです。私は山城高校バレー部の部員で良かったと胸を張って言えます。



水 泳 部

競泳主将 鶴野田羅希

3年間、山城高校水泳部として活動し引退した時は、山城高校に入学し水泳部に所属してやり遂げられたことが本当に良かったし良い人生の道を歩めたと思った。しかし、現役の時はずいぶんばかりでなぜ水泳をやっているんだろうと思うことが何度もあった。日々の練習もしんどい。試合本番のレースもしんどい。これといって答えを見つけられないまま引退した。引退するとしんどい毎日の練習がなくなった。初めのうちは毎日厳しい練習をしなくてよくなり嬉しかった。何日かすると時間を持て余してしかたなかった。内容のうすい一日がすごいスピードで過ぎていった。毎日が薄っぺらだった。その時初めて日々の練習が良く思えた。人生とはどれだけの困難に逃げずに立ち向かい乗り越えられるか、乗り越えるために努力をできたかでその人の人生の価値が決まると思った。私は水泳から人生を学んだように感じる。



ウォーターボーイズ主将 児島健悟

中学2年生の夏衝撃を受けたあの舞台に気づけばキャプテンとして立っていました。ウォーターボーイズに関わっていた時間は驚くほど早く過ぎ、多くの思い出を残して去っていきました。私は三年間ウォーターボーイズに取り組んだことを誇りに思っています。まわりの環境、人々に感謝の気持ちでいっぱいです。今年



年はSNS過剰拡散、朝の情報番組出演、夕方ニュース番組密着取材など予想だになかった嬉しい出来事が次山起りました。多くの人にウォーターボーイズのことを知ってもらえたことは、とても嬉しいことでしたが、その反面心配事も増えました。けれども願



間の先生方やOBの方、そして両親に支えてもらってすべての公演を成功させることができました。私は人とのつながり、信頼関係があったからこそ実現することができたと思います。ウォーターボーイズを通して沢山のことを学び貴重な経験をさせてもらいました。このことを忘れずこの先の人生を学んだことをいかして生きていきたいです。またこの先ずっとウォーターボーイズが続くことを願います。

卓 球 部

- ① 第70回近畿高等学校卓球選手権大会 男子ダブルス戦 出場（3年嶋木・吉田組）
平成28年度大津市クラス別卓球大会 一般女子B級の部 第2位（1年北村）
- ② 3年生 男子3名、2年生男子4名、1年生男子7名・女子4名
- ③ 2年 キャプテン 田辺暖袴

今年のチームは男子だけでなく、17年ぶりに女子団体チームも復活しました。自分たちの持てる力を精一杯試合で出せるように練習をしています。

これからは、春の大会に向けて、技術的にそして精神的に向上できるようにがんばっていきます。



写真：近畿高等学校卓球選手権大会

ダンス部

顧問：安野留三子 實本裕子 櫻井秀樹

① 1年生 男子9名 女子33名 2年生 男子2名 女子18名

3年生 男子2名 女子20名 合計84名

② 2016年第9回日本高校ダンス部選手権 近畿・中国・四国大会ビッグクラス準優勝受賞(2,3年生女子)(8月12日(金)神戸文化ホール)

2016年第9回日本高校ダンス部選手権 全国大会ビッグクラス出場(2,3年生女子)(8月17日(金)パシフィコ横浜国立大ホール)

北区民ふれあい祭(京都市北文化会館)、第9回日本高校ダンス部選手権冬季大会(大阪メイシアター)、第10回日本高校ダンス部選手権新人戦西日本大会(大阪なみはやドーム)

3年生へ 一躍る心、感じる心—

顧問 安野留三子

上記のダンス部の大会で賞を獲得することだけを目標にするのではなく、1,2年次には以下、様々な地域の行事に参加依頼をいただき、「地域の方々に笑顔と元気を届けよう!」を本校ダンス部のスローガンに掲げて地域の方々に愛されるダンス部を目指し活動をしてきました。ダンスを創作する上で、日々の生活の中でのふとした感動や体験がダンスの作品に現われます。そう言った意味では、日々、ダンスの題材が転がっているといっても過言ではありません。これからも常に踊る心、感じる心を持ち続けていってほしいと願っています。

京都市・乙訓地域公立高校フェスティバル(イオンモール京都桂川)北区民ふれあい祭(京都市北文化会館)北区ゴミ減量作戦ECO祭(船岡山公園)高齢者福祉総合施設健光園を慰問 クローバー甲子園に初出場(尼崎スポーツの森) 京都ハンナリーズ プロバスケットハーフタイムでのダンス演技披露(京都ハンナリーズアリーナ) 第60回京都府学校ダンス発表会(文化パルク城陽)では、私も教員の部で生徒と共に同じ舞台に立って作品を発表できたことは、かけがえのない貴重な思い出となりました。

ダンス部部长 兼光明々香

私は、部活動を通して様々な貴重な体験をし、多くのことを学ぶことができました。その中の一つが、仲間と一つの目標に向かって努力することの素晴らしさです。



私たちダンス部は1年生だけの大会である新人戦西日本大会や夏の全国に繋がる大会に向けて日々練習を重ね、全国大会で今までの成績（全国第3位）以上を目標に頑張っています。私は昨年先輩方と共に全国大会に出場し、その時の感動や喜び、達成感をもう一度味わいたいと思い、今年度の大会にも強い思いを持っていました。しかし私は部長ということもあり、「連続出場を止めてしまうのではないだろうか」などと大きな不安とプレッシャーも感じていました。そこで私を支えてくれたのは仲間们的存在です。初めから全員が同じ目標に向かって頑張っていたわけではありません。たくさんぶつかり合い、互いに助け合い励まし合うことで団結することができ、良いチームになれたのだと思います。

予選を通過し全国大会出場が決まった時は本当に嬉しく、さらにレベルアップしようと向上心に溢れていました。先輩や先生方の応援のおかげで、全力を尽くし悔いなく踊りることができました。また私は全国大会で選手宣誓を務めさせてもらいました。このような貴重な体験は私に、プレッシャーに打ち勝つ力と自信をつけさせてくれました。

私にとってダンス部は、家族のようにあたたかい本当に大切な居場所です。こんなに素敵な仲間に出会えたこと、そしてこのようなダンス部をつくりあげてこられた先生や先輩方に感謝し、これからもさらに良い部活へととしていってほしいです。そしてさらなる活躍を期待しています。



女子テニス部

部長：藤原優衣

顧問：山内正人 筒井祐太 渡邊史佳 西村雅子 高橋りり子

①所属人数 女子：1年生11名、2年生15名、3年生7名 計33名

②・2016 京都サマージュニアテニス選手権大会 シングルス本戦進出者5名、うちベスト16 山本茉奈(2年)、ベスト32 藤原優衣(2年)・横山万貴(2年)、ダブルス本戦進出者3ペア、うちベスト16 藤原(2年)山本(2年)ペア

・平成28年度近畿高等学校テニス大会京都府予選、シングルス本戦進出者7名、うちベスト32 八田悠里(2年)・井上穂乃香(2年)、ダブルス本戦進出者4ペア、うちベスト32 藤原(2年)山本(2年)ペア、野村(2年)岸本(1年)ペア

・平成28年度全国選抜高校テニス大会京都府予選(団体戦)第4位

・平成28年度京都府公立高等学校テニス選手権大会団体の部優勝

・平成28年度京都府公立高等学校テニス選手権大会個人の部第3位 藤原優衣(2年)

・平成28年度京都府高等学校テニス選手権大会シングルス本戦進出者7名、うちベスト32 藤原優衣(2年)、ダブルス本戦進出者3ペア、うちベスト16 藤原(2年)山本(2年)ペア

・平成28年度京都招待テニス選手権大会(団体・個人)に京都府の代表として出場

・平成28年度近畿公立高等学校テニス選手権大会(団体・個人)に京都府の公立高校の代表として出場。



写真：平成28年度京都府公立高等学校テニス選手権大会団体の部 優勝

「部活動の思い出」 主将 藤原優衣

今年、私の印象に残っているのは、京都府公立高等学校テニス選手権大会の団体戦です。この大会には四連覇がかかっていたので、大きなプレッシャーを感じながら挑みました。決勝では苦戦しましたが、勝ちきることができました。勝ちたい気持ちが相手よりも強かった

のだと思います。しかし、団体メンバーだけが戦っていた訳ではありません。試合に出られなかった人も、どの学校よりも大きな拍手を全力で送ってくれて、とても大きな力になりました。こうして1月の近畿公立高校大会に出場できるようになりました。

2年生が引退するまであと半年しかありません。今、私たち2年生がすべきことは、後輩の見本になるようなプレーや、試合をイメージした練習に取り組む姿勢を伝えることだと思います。あきらめずにボールを拾いに行く、やりたいことではなくやるべきことをやる、それが大事ということです。

あと少しの時間を大切に、さらに一つでも多く勝てるように、全員で努力していきたいと思います。

男子テニス部

部長：田浦峻佑

顧問：山内正人 高橋るり子 渡邊史佳 西村雅子 筒井祐太

① 1年生21名、2年生25名、3年生14名 計60名(12月末日現在)

② 平成28年度京都府高等学校総合体育大会 団体の部 Aブロック第3位

平成28年度近畿公立高等学校テニス大会個人の部(シングルス)出場 2年 岩田恭輝

※近畿公立高等学校テニス大会個人の部(シングルス)には6年連続出場

3年4組 管 裕貴

5月の高校総体京都府予選を最後に僕たち3年生は硬式テニス部を引退しました。僕は引退して気づいたことが二つあります。

一つ目は「仲間」の大切さです。3年間楽しく部活動ができたのは、仲間がいてくれたからだと思います。練習で疲れたとき、部の雰囲気が悪くなったとき、みんなを笑わせて盛り上げてくれる仲間がいました。また、ダブルスで僕の調子が悪いとき励ましてくれるペアがいました。僕はこのメンバーと一緒に部活動ができてよかったと心から思います。

二つ目は「責任」を持つことの大切さです。僕は副部長をしていました。うまくまとめられていたかは分かりませんが、自分にとっていい経験になったと思います。

僕はこれからも部活動で学んだことを話していきたいと思っています。



平成28年度全国選抜予選(団体) 9月22日撮影

ハンドボール部

顧問：國山 博

① 主将（3年）徳田龍司

部員数 29名（3年含む）

② IH予選1回戦対桂高校 28－13

2回戦 対向陽高校 8－33 敗退

③ クラブの思い出

山城高校のハンドボール部は、今年で創部30周年を迎え、新たな歴史を刻んでいきます。日々の練習は、顧問の國山先生の熱心なご指導のもと、仲間たちと日が暮れるまで大きな声を掛け合いながら行いました。試行錯誤を繰り返しながら、成長できた日々がとても価値のある時間でした。30年間のこのような努力が、この部を支え、自分もその一員になれたこと、3年間の高校生活においてハンドボールというスポーツに必死になれたことを今誇りに思っています。



H28 6月 IH京都府予選

美術部

顧問：神谷まり子 酒井泰子 藤原智恵美

① 3年生1名・2年生8名・1年生1名

② 球技大会・文化祭パンフレットのイラスト、文化祭中看板の制作、校内文化祭においてだまし絵などを展示しました。写真撮影の機会を提供する参加型の展示で皆さんに楽しんでいただきました。第7回京都府デッサンコンクールへの参加、ミツパチの一枚画、環境教育ポスターコンクールに出品しました。特にミツパチの一枚画では2年7組安藤理恵さんが優秀賞を受賞しました。3学期は、校内で展示できる作品を共同制作する予定です。

③ 幅広い分野に挑戦し、作品の発表機会を増やしていきたいです。



男子バスケットボール部

顧問：西田和史 磯田修平 時武 輝

- ① 主将 内藤碩紀 副主将 藤川弘人

所属人数 1年生 16名 2年生 10名 3年生 18名 マネージャー 3名

- ② 平成28年度全国高校総体 第69回全国高校選手権府予選 第3位

平成28年度京都府高等学校総合体育大会 下級の部 優勝

第63回近畿高等学校選手権大会 出場 1回戦敗退

平成28年度第48回京都府立高等学校（市部）バスケットボール大会勝（2年連続）

第36回京都府高等学校バスケットボール選手権大会 兼

第47回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会京都府予選



ラグビー部

顧問：江村俊夫 前田夕子 北山 勉

- ① 3年生 増田 凌、2年生 1名（マネージャー）、1年生 大田竜聖

- ② 春の総体、全国予選には合同チームで出場しました。

- ③ 男子2名での活動ですが、毎日朝と夕方の2部練習で鍛えております。地道に大変努力してトレーニングに励んでいます。その中で1年生は聴覚障害のハンディキャップをものともせず頑張っていますので、応援のほどよろしくお願いします。

2016年12月8日付
中日新聞より

南海地震 友の死忘れぬ

半田へ学徙動員 京都の同級生「集い」



13人の名前が刻まれた慰霊碑の前で校歌を歌う同級生たち。京都府北区的の山城高校で

第二次世界大戦中の一四四四昭和十三年十一月一日、京都府山城町（現・京都市）に生まれ、三重県を襲った南海地震で亡くなった同級生を忘れない。半田へ学徙動員した京都府の山城高校で、同級生が慰霊碑の前で校歌を歌った。半田へ学徙動員した京都府の山城高校で、同級生が慰霊碑の前で校歌を歌った。

（山城高校）
（山城高校）
（山城高校）

寄付者芳名

芳名の数字は卒業年度です。
● 第三中 ● 山城高

- ⑧ 松木利夫 ⑨ 弓削治 ⑩ 佐々木峻 ⑪ 片野道子 ⑫ 原田正男 ⑬ 松村篤之介 ⑭ 浦川博正 ⑮ 裏戸茂男 ⑯ 鈴木和子 ⑰ 高柳久子 ⑱ 奥村弘 ⑲ 出納正彰 ⑳ 木村英生 ㉑ 岡田益郎 ㉒ 岡田喜三 ㉓ 清田富士夫 ㉔ 高須壽一 ㉕ 東野裕 ㉖ 松尾二郎 ㉗ 松田恒知 ㉘ 釜本邦茂 ㉙ 山田耕二 ㉚ 小畑修一 ㉛ 堀勝 ㉜ 竹澤慎 ㉝ 西村耕作 ㉞ 広瀬三三 ㉟ 洞本邦男 ㊱ 橋谷巖 ㊲ 長谷川律雄 ㊳ 二村昭雄 ㊴ 大塚樹 ㊵ 岡廣 ㊶ 三中西久雄 ㊷ 佐々木功 ㊸ 北昌彦 ㊹ 名倉徳和 ㊺ 梅原健一 ㊻ 金山政喜 ㊼ 湖海信成 ㊽ 折井久彦 ㊾ 山田恵子 ㊿ 東直正 ㉑ 高橋誠一郎 ㉒ 片岡光泰 ㉓ 西田稔 ㉔ 佐々木成夫 ㉕ 平岡静哉 ㉖ 鶴岡忠男 ㉗ 西山剛史 ㉘ 服部富雄 ㉙ 馬場健 ㉚ 林善夫 ㉛ 北中界 ㉜ 高野浩二 ㉝ 寺田壽子 ㉞ 岩崎進 ㉟ 佐々木芳枝 ㊱ 三品理一郎 ㊲ 石原史朗 ㊳ 大川原康夫 ㊴ 澤田安之 ㊵ 村端豊資 ㊶ 佐田正昭 ㊷ 押谷誠之助 ㊸ 藤村恒雄 ㊹ 津田雅也 ㊺ 四方修 ㊻ 山本晃 ㊼ 野々村晃 ㊽ 狐野美代子 ㊾ 山北光一 ㊿ 浅野修 ㉑ 戸田卓男 ㉒ 杉本和子 ㉓ 柴田昌彦 ㉔ 安達光男 ㉕ 一色逸雄 ㉖ 山田安造 ㉗ 坂根實 ㉘ 小林愛子 ㉙ 黒崎義明 ㉚ 堀美恵 ㉛ 中村純三 ㉜ 新井

- 昭三 ⑧ 福井和子 ⑨ 河本正知 ⑩ 吉田和夫 ⑪ 篠崎徹二 ⑫ 田中英樹 ⑬ 井元俊二 ⑭ 福田誠 ⑮ 道井博夫 ⑯ 都築鳩枝 ⑰ 森重信 ⑱ 西村圭子 ⑲ 堀場厚 ⑳ 古田義男 ㉑ 岩田熱 ㉒ 西村正明 ㉓ 上野隆男 ㉔ 萩田光美 ㉕ 岡田新 ㉖ 栗本俊和 ㉗ 真枝康子 ㉘ 永良系二 ㉙ 高橋玲爾 ㉚ 横田友伯 ㉛ 下井竜介 ㉜ 西野孝一 ㉝ 大町義治 ㉞ 木村文子 ㉟ 山進 ㊱ 北清水稔 ㊲ 大蔵勝男 ㊳ 藤根博子 ㊴ 江端弘光 ㊵ 国定正治 ㊶ 青山直 ㊷ 橋本弘次 ㊸ 古田茂 ㊹ 石田彰子 ㊺ 岡波泰造 ㊻ 伊藤太一 ㊼ 吉田邦夫 ㊽ 高下みどり ㊾ 中西喜美子 ㊿ 芳井輝子 ㉑ 中川幸雄 ㉒ 中塚富久子 ㉓ 中西雄太郎 ㉔ 佐藤嶺子 ㉕ 稲本あや子 ㉖ 須田美智子 ㉗ 牧野信夫 ㉘ 公手達郎 ㉙ 河本充 ㉚ 藤田綾子 ㉛ 鈴木修一郎 ㉜ 神田敬一 ㉝ 岩下昭 ㉞ 谷岡豊次 ㉟ 林率真 ㊱ 木村智佳子 ㊲ 柴田陽子 ㊳ 辻井芳一 ㊴ 三木敏雄 ㊵ 柴田雄一 ㊶ 橋本春子 ㊷ 鈴木泰子 ㊸ 三橋秀樹 ㊹ 川本晴海 ㊺ 小島渡史子 ㊻ 西板正弘 ㊼ 山田洋子 ㊽ 嘉佳佳巳 ㊾ 船越周 ㊿ 高林千愛子 ㉑ 岩田直樹 ㉒ 高林藤樹

第10号5ページ下段8行目「高須壽一氏文中」に誤表記がありましたので、お詫言ひて訂正します。「Squirt 30本」
「Squirt 30本」

強い同窓会をつくりましょう

柱が一本あるとします。目印にはなるかも知れませんが、それ以上の働きは期待出来ません。

それでは二本ではどうでしょうか。二本あれば、その間に幕を張って、壁をつくる事が出来ます。幕は物を隔てたり、区別したりできるのです。一本の柱にくらべてその働きは格段に飛躍します。しかし、二本の柱では幕や壁は倒れるという心配があります。次に柱を三本にすると、ここではじめて安定という状態が生まれます。不安定や中立に比べて安定は完成を意味します。あの巨大なスカイツリーも三角形から出来ています。

さて、物事には三という発想が大きい力を発揮します。よく言われるのは、真善美の三つです。また、知徳体ともいわれます。組織にあつては三要素として名簿と会計報告と機関誌がこれにあたるとされます。今、我が同窓会に残念ながらこの三要素がしつかり機能していません。昭和二十三年に学制改革が施行され、PTAという方法が輸入されました。PとTを両輪として学校を引っ張るというわけです。しかし、車は両輪があればうまく走るでしようか。否、車軸があつてこそ成り立つのです。その車軸が同窓会ではないかというのが、私の言い分です。師の恩は山よりも高いと言います。又親の恩は海よりも深いと言います。しかし、学校に於いては教職員や保護者が子どもに関わるのは何れも数年です。

これに対して先輩後輩の絆は水久です。遠い先輩が築かれた栄誉・名声を後代の我々は自分の誇りとし、又、鑑とします。そして過えることがありません。この縦の縁を紡ぎ繋ぐのが同窓会ではないでしようか。

各年度では同朋の出会いをいつまでも暖かい友情の輪として残そうと、懇親を深めています。もう一歩進んで学年の壁を越えた出会いを太い絆として強く持ちたいものです。後輩が意気盛んに燃えているときは大いに祝福し、拍手してやりましょう。しかし、逆に力強く消沈しているならば、元氣よく奮い立つように応援してやろうではありませんか。我々自身が親心・兄心をもつて持たねばなりません。ではどうしたら？ それは一人一人が熱い母校愛を持つことです。具体的に言えば、母校に心を寄せるとは即ち機関誌を読むことです。機関誌を読むことで冷めかけた郷愁もまた燃えてきます。さらには是非投稿してくださいます。書くことで記事は増え、ページは賑やかになり、コミュニケーションが出来ます。

「応援団が勢いづけばチームも燃える」のではないうでしようか。同窓会は母校の応援団です。声を大にして母校を応援しましょう。母校愛は膨らんでやがて祖国愛に繋がります。それから世界愛・人類愛となるでしよう。

編集部から差し上げるハガキに是非お返事を下さい。お待ち申しあげています。

初代編集長 高林 藤樹

編集後記

京三中・山城高同窓会誌「双ヶ丘」第11号をお届けします。今回も多くの同窓生から多種多様な原稿や写真が寄せられました。ありがとうございます。また、学校の現況やクラブ活動の実績など、ご報告、ご紹介くださった校長先生はじめ先生方、御礼申し上げます。

今年（2017年）5月には、母校の創立110周年を祝う会が、同窓会主催で開催されます。世紀を超えて歴史を刻み続ける母校を、さらに盛り立てていけるよう、同窓会誌編集部も、創意を重ねていきたいと存じます。これからもよろしくお願ひ致します。

編集担当 中村哲也

京三中・山城高同窓会誌 双ヶ丘 第十一号（非売品）

2017年3月1日発行

発行人	会長 森 貞男
編集長	28回 中村 哲也
次長	18回 伊藤 植彦
会計	26回 松村多美男
会計	26回 國野 直臣

